

先生の使命 (Mission) を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. 「自己学習能力の育成」とは

- (1) 小学時代の準備が中学時代を決める。
中学時代の準備が高校時代を決める。
高校時代の準備が大学時代を決める。
大学時代の準備が大学院や社会人になってからの時代を決める。
- (2) 自分の人生とは何か、自分のよいところ、大切にしたいものとは何かを常に考え、大好きなことをしながらも、いつも時代の変化を読みながらいつも一歩先の準備を怠らない。そこに入る前にだいたいの準備をし終える。
- (3) これからの人生は 120 年。どう充実させていくかは、このような心掛けしだい。
- (4) そこで必要なのは新しいことを自分で学ぶ力、つまり「自己学習能力」。
- (5) この「自己学習能力を育成」し、教わり手の「成功の実施に貢献する」ことが先生の使命 (Mission)。

2. 「仕事」とは「結果を出し続けること」

- (1) 仕事の上で大事なのはただやるだけでなく、「結果」を出すこと、「結果を出し続けること」。
- (2) 同じ時間だけ教わったのに、ある先生に教わると学力が身に付き、別の先生に教わると学力が身に付かないことがある。なぜか。
- (3) 「段取り八分」という言葉が大工さんの間にある。
毎日の仕事について、今日はどのような段取り (手順) でやろうかなと仕事を始める前によく考えた場合にはよい仕事ができるということのものたえだ。
- (4) 授業も同じで、今日の授業はどうやろうかなと授業の前に十分考え、「授業の設計」をあらかじめ完了してから授業に臨むと「よい授業」ができることがある。
授業終了後、その日の授業を振り返り、改善点を見出し文章化、二度と同じ誤りを繰り返さないと決意して、次の授業の準備に取りかかることを粘り強く続けると、「よい授業」をし続ける可能性が高まる。
- (5) 問題は教わり手がどのように「理解」し、一度「理解」した内容を 100 % 「定着」させたかである。
更には、テストで合格点が取れ、又、一生涯の使用に耐えるか、つまり「応用」力がついたかである。
このように、教わり手の「理解」、「定着」、「応用」の各段階ごとの状況に絶えず配慮ができて初めて「結果」を出すことができる。
「結果」の出し方に改善を継続して初めて「結果を出し続けること」ができ、「仕事をしたこと」になる。

3. 「競合比較」が最重要

ーベストプラクティスのベンチマーキングも大切だがー